

統合型校務支援システムとは

「統合型校務支援システム」とは？

教務系(成績処理、出欠管理、時数管理等)、保健系(健康診断票、保健室来室管理等)、学籍系(指導要録等)、学校事務系など統合した機能を有しているシステム

統合型校務支援システムとは、「教務系(成績処理、出欠管理、時数管理等)・保健系(健康診断票、保健室来室管理等)、学籍系(指導要録等)、学校事務系など統合した機能を有しているシステム」を指し、成績処理等だけでなく、グループウェア*の活用による情報共有も含め、広く「校務」と呼ばれる業務全般を実施するために必要となる機能を実装したシステムです。

統合型校務支援システムを導入するメリットは、情報システムの利用により校務における業務負担を軽減できることに加え、情報の一元管理及び共有ができる点にあります。統合型校務支援システムは、広く学校運営を支える情報基盤であるといえます。



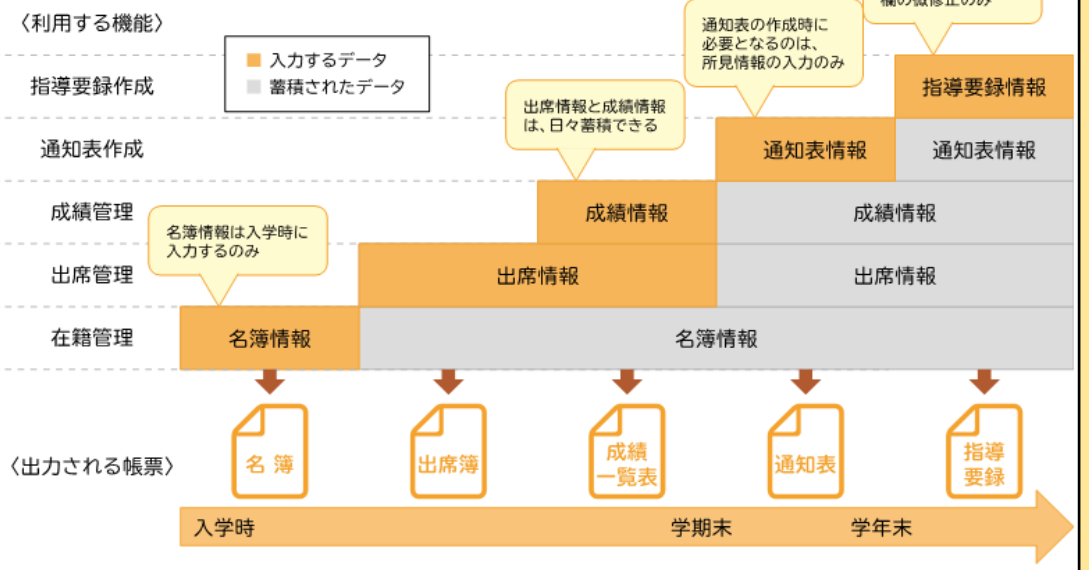
校務支援システムを利用した業務の流れ

在籍管理 出席管理 成績処理 通知表の作成 指導要録の作成

下図の「統合型校務支援システムに蓄積されていくデータの流れ」で示すように、統合型校務支援システムに登録された各種情報は蓄積されていくため、児童生徒の在籍情報であれば入学時に一度入力すると、出席簿の作成、成績表等の作成、通知表の作成、指導要録の作成と、それぞれのタイミングで必要となる情報を付加するだけで、各種書類を作成できる(情報を再入力する必要がない)ことが、統合型校務支援システムを導入することで得られる大きなメリットです。

また、児童生徒の進級と共に学年横断的に蓄積されていくデータを活用することで、調査書等の各種書類の作成を効率的に行うことができます。

〈統合型校務支援システムに蓄積されていくデータの流れ〉



「文部科学省 校務支援システム導入のための手引き」より

校務支援システム導入による効果

正確性の確保

子どもと向き合う
時間の確保

情報の
一元化・共有

子どもを見守る
基盤

教育活動の質の改善

正確性の確保

成績処理や評価を入力する際は、チェック機能により入力情報の確認がしやすくなります。また、各機能でデータ引用することで転記ミスも軽減され、正確性が向上します。

子どもと向き合う時間の確保

校務支援システム導入により、教員の業務負担軽減とともに、時間的にゆとりができることにより、子どもと向き合う時間が1日30分以上増加したという報告もあります。

情報の一元化・共有

様々な資料作成で、入力項目や作業手順の統一化が図れます。全教員で情報の一元化や共有が行え、効率よく校務を進めることができます。

子どもを見守る基盤

校日頃の気づきを校務支援システム上に記録することで、子供の成長と共に情報が蓄積されるとともに、教員全体で一人ひとりの子どもを見守ることができます。